

議会活動フォト



兼六小学校開校式▲  
材木町小学校と味噌蔵町小学校が統合し、兼六小学校が誕生しました。



視察訪問▶  
鹿児島市議会を訪問。最新の議場を見学させていただきました。



◀街頭演説  
街頭演説は、市民の皆さんにお訴えをする場であると同時に、自分を鍛錬する場でもあります。



▼熊本震災支援への職員派遣出発式  
企業局職員4名が、不足している給水活動に派遣されました。

金沢市議会議員

喜多浩一通信

Vol.15 発行・喜多浩一



市議会議員6年目を迎えて

いつも大きなご声援をありがとうございます。  
私、喜多浩一は皆様方からのご支援のもと、金沢市議会議員生活5年を終え、6年目を迎えることができました。本当に感謝申し上げます。  
一般企業で言えば、仕事全般が見えてきて、指導する部下ができ、それなりの役職がつく頃かもしれません。私も大学を卒業し、サラリーマンとなり、仕事に自信を持ちはじめたのもこの頃であり、非常に懐かしく思い出されます。  
2011年の4月に初めて金沢市議会議員としての議席をいただいて以来、政治とは何か？金沢の足りない点は何か？本当の市民の皆さまの幸せとは何か？色々な自問自答や勉強を繰り返してきました。多くの要望や疑問をいただいてきましたが、まだまだ十分に市民の皆さまの期待に応えきれていないと感じています。  
6年目以降のこれからは、議員として、政治家として、そして人として、`本物、かどうかが試される時期に入ります。`走りながら考える、をモットーに、金沢市の発展のために、必死で努力を続けていく所存ですので、市民の皆さま方にはこれまで以上に叱咤激励、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。  
この「喜多浩一通信」も今号で15回目の発行となりました。バックナンバーについては下記アドレスにてご覧になれますので、アクセスしていただければ幸いです。  
(喜多浩一)

<http://www.kita-koichi.com/archive2/>

《喜多浩一プロフィール》

- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| 昭和45年5月 野町に生まれる                | 平成9年4月 今村証券株式会社入社            |
| 52年3月 藤蔭幼稚園卒                   | 23年1月 // 退社                  |
| 58年3月 森山町小学校卒<br>(金沢東警察署で少年剣道) | 23年4月 金沢市議会議員選挙に初当選          |
| 61年3月 星稜中学校卒<br>(剣道部主将)        | 27年4月 金沢市議選挙で2期目の当選          |
| 平成元年3月 金沢泉丘高校卒<br>(剣道部主将)      | 野町校下青年会・野町弥生消防分団所属           |
| 9年3月 早稲田大学卒                    | 金沢市泉本町に在住                    |
|                                | 資格 証券アナリスト・ファイナンシャルプランナー     |
|                                | 国家試験合格 行政書士・宅地建物取引士          |
|                                | 家族 妻、長男(米泉ドジャース→石川中央ボーイズ)、次男 |



# 美大卒業生の定住促進

市議会6月定例会は17日、本会議を再開し、3氏が一般質問した。山野之義市長は金沢美大の卒業生らがまちなかで制作活動できる場所の開設に対する支援策を検討する方針を示した。美大の学生の約85%が県外出身者であり、卒業後に制作の場がないことを理由に県外に出る人が多いため、金沢への定住を促したいと考えた。

## 市が検討

喜多浩一氏（自民）が、金沢美大の卒業生が県外に出る理由について「希望の仕事がないことも大きな理由で、制作や展示のための広いスペースを確保する場所がないことが大きな原因だ」と述べ、市の取り組みを尋ねた。

これに対し、山野市長は金沢美大と連携し、まちなかでの制作活動に対する支援を検討する考えを強調した。さらに「地元工房での就業支援や多様な作り手、地元企業とのネットワーク

の構築を通じて、人材育成や卒業生の本市への定住を促す」と語った。

金沢美大によると、今春入学した1500人のうち、85%が県外出身者だった。近年は学生が手掛ける作品のサイズが大きくなっていくこともあり、制作や展示スペースの確保が課題になっているという。

一般質問終了後、山野市長は、工芸作家が町家を借りる際に助成する制度を設けていることを挙げ、「そのような形も含めて（支援策を）検討できないか」と話している」と話した。

北國新聞 2016年6月18日付 朝刊

## 市議会一般質問

## 喜多浩一関連記事

北陸中日新聞 2016年2月12日付 朝刊

## 地震被害者に支援を

### 台湾南部 金沢で街頭募金活動

台湾南部で六日に発生した地震を受け、民間交流が盛んな金沢市で台湾出身者や支援者が街頭で募



台湾南部で起きた地震を受け、募金を求める参加者（金沢市武蔵町）

金活動を行った。十三、十四両日にも開き、日本赤十字を通して台南市に届け

金沢市出身の八田与一技師が台南市内でダム建設に尽力した縁で、二〇一一年から民間交流を続ける両市。「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」や県台湾華僑総会など四団体が主催した。金沢市も参加し、五十人が同市武蔵町

の路上や金沢駅前にも立つた。「募金にご協力を」と通行人に声を掛けると、積極的に善意を寄せる人が相次いだ。友好の会の顧問を務める山野之義市長は「若い方がたくさん行動してくれ、心強い。引き続き、観光やビジネスで台湾に足を運んでほしい」と話した。このほか、市と市観光協会では、金沢駅観光案内所などに置いた募金箱や金融機関口座を通じて義援金も募っている。

北國新聞 2016年2月18日付 朝刊

## 「民泊」98部屋ネット掲載

### 58%が所在地不明

個人宅の空き家・部屋などを宿泊所として貸し出す「民泊」について、越田理

恵保健局長は、5月末時点でインターネットの大手仲介サイトに登録されていた市内98部屋のうち、58%に当たる57部屋の所在地が確認できなかった。

喜多氏がたまたま。所在地不明の部屋は、ほとんどが旅館業法の許可を得ていないとみられるが、管理者に連絡できず、追跡は困難となっている。残りの部屋では、28部屋が許可を受け、13部屋は市の指導で申請準備を進めている。昨年6月末時点の全掲載数は39部屋で、約1年で2倍以上に増えた。

国は民泊のルールづくりを進めており、市は法制度が明確になった段階で具体的な対応策を検討する考えだ。

トルコの行政職員 山野市長に抱負

国際協力機構（JICA）の研修事業で、県内の地方行政について学んでいるトルコの中央・地方の行政職員13人は17日、市役所を訪れ、山野之義市長に抱負を述べた。

一行はトルコの県副知事や郡長らで、9日に県内に入り、23日まで金沢や輪島、珠洲で観光、環境、まちづくりなどに理解を深めている。

山野市長の歓迎の言葉に続き、トルコ内務省人事部長のメラル・フェフリ氏が「日本の行政や生活文化を見聞できる機会に感謝する」とあいさつした。県ユースホテル協会副会長の喜多浩一市議が同席した。

## 平成28年6月定例会での主な質問と答弁の要約

### ◎東京国立近代美術館工芸館の金沢移転について

〈喜多浩一〉  
工芸館移転については、単なる役所機能の移転ではほとんど意味がありません。東京にあった時以上に機能強化が図られ、その効果が工芸業界全体に波及し、さらに地域産業の振興に寄与するものとならなければなりません。山野市長には、国や県に対して市の意思をしっかりと伝えた上で、全力で支援、協力して頂きたい。  
〈山野市長〉  
本市の意思をしっかりと伝えていくことはもちろん、県とも連携をしながら、金沢市の伝統工芸産業の発展に資するように、国等との協議を進めていく。

### ◎民泊への対応について

〈喜多浩一〉  
政府は民泊の全面解禁に向けて、急ピッチで準備を進めているようだが、国の法律改正に合わせて、実体面を考慮した地域ごとのルール作りが必要になると考えられるが。  
〈山野市長〉  
民泊サービスについては、旅館業法の適用除外となる認定特区とともに、旅館業法上の許可要件の緩和が行われた。また、規制改革実施計画において、届け出制や登録制の宿泊サービスの方向性が示された。個人の家やマンションの空き部屋などの有効活用が期待されているが、一方では衛生面や安全面での十分な対応が必要であり、まずは法整備に向けた国の動向を注視していく。

### ◎山野市長が考えるこれからの金沢について

〈喜多浩一〉  
新幹線開業により新しい段階に入ったといえる金沢が、これから更に飛躍するためには、山野市長は今後何が必要と考えているか。  
〈山野市長〉  
徹底的に金沢らしさにこだわっていくべきである。金沢の個性、魅力、強みに磨きをかけていくとともに、新しいことに挑戦していく。その中で刺激を受けて新しい価値を付け加えていくことが重要であり、それが「本物、だ」と考える。

市が広坂一丁目に構える工芸品販売店「金沢・クラフト広坂」の昨年度の来店者数と売上高が前年度から約4割増となった。市内の伝統工芸では金沢箔と金沢漆器の生産額が前年を上回り、市は北陸新幹線の開業効果が工芸分野にも波及したとみている。

## 来店者 4割増 売り上げ

クラフト広坂 箔、漆器の生産額上昇  
推移した。今年度も客足は好調で、昨年度と同じ水準を保っている。市によると、金沢漆器の生産額は、1991年度以降で初めて上昇に転じた。金箔箔は大きな寺社の修復などで特需が発生するたため、生産額は毎年上下するが、昨年度は新幹線以外に伸びる要素はなかったという。市は土産品を中心に需要が高まったと推測する。

北國新聞 2016年6月18日付 朝刊